

学校法人 滋慶コミュニケーションアート 名古屋医健スポーツ専門学校  
自己点検・自己評価／学校関係者評価委員会 評価シート

【2024年6月1日実施】

2023年度自己点検自己評価(2023年4月1日～2024年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価		点検・評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価	
		適切に対応…4 ほぼ適切に対応…3 やや不適切…2 不適切…1				適切に対応…4 ほぼ適切に対応…3 やや不適切…2 不適切…1	学校関係者評価委員よりの御意見
1 教育理念・目的・育成人材像	1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	4		<p>学校法人滋慶コミュニケーションアート 名古屋医健スポーツ専門学校は、滋慶学園グループ(※1)に属し、「職業人教育を通して社会に貢献していく」ことをミッション(使命)としている。</p> <p>「3つの教育理念」(「実学教育」(※2)「人間教育」(※3)「国際教育」(※4))を実践し、「4つの信頼」(①産業界からの信頼 ②高等学校からの信頼 ③学生・保護者からの信頼 ④地域からの信頼)を得られるように学校運営をしている。</p> <p>建学の理念に基づき、名古屋医健スポーツ専門学校は、『スポーツ・医療・福祉・保育・食・健康美を通して、人に喜びや感動を与えられる「即戦力」』となる人材育成を目的として学校運営をしている。</p> <p>現在、スポーツ・医療・福祉・保育・食・農業業界を取り巻く社会の環境は大きく変化している。 知識・技術の高度化や多職種との連携、より付加価値の高い人材の必要性が現場で求められている。本校では、8学科を有して、『産学連携教育システム』『多職種連携教育』により、様々な変化にも対応できる人材の育成を目指している。</p>	<p>(※1)「滋慶学園グループ」 1976年の創立以来、「職業人教育を通して社会に貢献する」ことをミッションに掲げ、全国に専門学校・教育機関を設置し、業界で即戦力となる人材育成のため、建学時から変わらない「3つの教育理念」(実学教育、人間教育、国際教育)と「4つの信頼」(産業界からの信頼、高等学校からの信頼、学生・保護者からの信頼、地域からの信頼)を実践することで、理想の教育実現を目指す。医療・福祉・美容・調理・製菓・バイオ・スポーツ・クリエイティブ・エコ・音楽・ダンス等、多岐にわたる分野で北海道から福岡、ニューヨークまで86校を有する。</p> <p>(※2)「実学教育」 スペシャリストが求められる時代に即し、業界に直結した専門学校として、即戦力となる知識技術を教授する。一人ひとりの個性を活かし、それぞれの業界で力が発揮できるように構築された『滋慶学園グループ独自の教育システム』。</p> <p>(※3)「人間教育」 開校以来、『今日も笑顔で挨拶を』を標語に掲げ、他人への思いやりの気持ちやコミュニケーション能力、リーダーシップがとれる対人スキル等を身につけ、同時にプロ・社会人としての身構え、心構え・気構えを養成する。</p> <p>(※4)「国際教育」 コミュニケーション言語としての英語を身につけるだけでなく、日本人としてのアイデンティティを確立した上で、広い視野でモノを捉える国際的感性を養う。</p>	4	<p>・他の学校、専門学校と比べて、多職種連携をしている学校だと思えます。他学科を含め、学べる環境だと感じました。 ・「3つの教育理念」と「4つの信頼」がはっきりと定められている。国際教育の視点は、グローバル社会において重要な視点であると共感できる。 ・教員、事務局の連携がうまく取れている感じがする。 ・学校の特色、将来像も学生ファーストで考えられていると思う。 ・素晴らしい理念と目的であり、社会に貢献していると思えます。社会は刻々と変化しており、また人(学生)も変わってきていると思えます。それらに対応できるよう、さらに努力を重ねていってください。 ・教育理念、目的について明確にされている。 ・「3つの教育理念」と「4つの信頼」は、ぶれることなく、特に学生にもわかりやすい「いつも笑顔で挨拶を」が教員からの働きかけで行われていることがよい。 ・しっかりと先を見つめ、目標へのビジョンがわかりやすく、説明を聞き理解できました。</p>
	1-2 学校の特色は何か						
	1-3 学校の将来構想を抱いているか						
2 学校運営	2-4 運営方針は定められているか	4		<p>環境の変化に対応できるように、運営方針を事業計画にまとめている。滋慶学園グループとしては毎年、長期・中期・短期展望とし、事業計画を作成している。それを受けて、滋慶学園COMグループが短期事業計画を作成するが、そのもとになるのが、滋慶学園COMグループに属する各学校が作成する短期事業計画であり、毎年作成しているこの事業計画書が各学校における運営の核となるものである。</p> <p>事業計画は、法人理事会・評議員会の決裁を受け、承認を得ることになっている。それを受け、本校では毎年3月に事業計画を全教職員へ周知徹底するための研修も行っている。 事業計画においては、グループ全体の方針や方向性、組織、各部署における目標や取り組み、職務分掌、各種会議及び研修等々についてが明確に示されている。</p> <p>運営組織は、事業計画の核をなす組織目的、運営方針、実行方針と実行計画に基づいたものである。単年度の運営も、中期計画の視点にたって行われる。事業計画書の組織図には学校に係わる人材が明記され、誰もが全員の組織上の位置づけを理解できるようになっている。</p> <p>滋慶学園グループの長期・中期・短期の事業計画に沿って、採用と人材育成を行い、様々な研修においてスタッフのスキル面とマインド面の向上を図っている。</p> <p>滋慶学園グループには、IT・情報システムに関わるサポート企業として、(株)プレーンスタッフコンサルティングと(株)国際教育センターVISTA ARTSの2社があり、情報のシステム化と効率化を図っている。</p>	<p>各学校における事業計画書は、広報・教務・就職と、学校におけるすべての部署について考えられ、また、すべての部署が同じ方針・考え方を理解し、徹底している。</p> <p>学校全体の運営、あるいは各部署の運営が正しく行われるために、様々な研修や会議が設けられ、この研修、会議を通じて、個人個人の目標設定及び業務への落とし込みを行い、また常に方向性、位置づけ等を確認できるシステムを構築している。</p>	3.9	<p>・自分が卒業した頃と比べ、名古屋医健スポーツ専門学校の名前が知られていると感じます。ですが、学校で学ぶことができる利点や特色、どういった学科があるのか理解されていない方が多い印象を受けます。 ・組織が大きくなれば、それだけ細部に渡って注意を必要とされると思われるので、引き続き努力していただきたい。 ・しっかりとした運営方針、業務計画が立てられており、またスタッフの方々の熱意も十分に感じます。 ・必要な計画、制度等について整備され、組織としての意思決定も円滑かつ有効になされている。 ・多くの分野の専門課程を教育する学校だが、全学科を集めての会議を開催するなど、職員は同じ目標に向かっていくことが明示できている。</p>
	2-5 事業計画は定められているか						
	2-6 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか						
	2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか						
	2-8 意思決定システムは確立されているか						
	2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか						

3 教育活動	<p>3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか</p> <p>3-11 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか</p> <p>3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか</p> <p>3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか</p> <p>3-14 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか</p> <p>3-15 授業評価の実施・評価体制はあるか</p> <p>3-16 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</p> <p>3-17 教員の専門性を向上させる研修を行っているか</p> <p>3-18 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか</p> <p>3-19 資格取得の指導体制はあるか</p>	3	<p>職業人教育は常に業界と密接な関連を持たなければ、教育目標、育成人材像は正しく方向づけられないと考えており、業界の動向を常にキャッチし、その変化に対応して養成目的や教育目標の見直しを毎年実施している。 本校は教育システムとして、独自の「産学連携教育システム」を構築しており、このシステムにより、業界と乖離することなく、業界で即戦力となりうる人材を育成、輩出できるように取り組んでいる。</p> <p>教育目標達成のためのカリキュラムは、入学前から卒業まで、体系的に編成されているが、常に医療教育部会・スポーツ科学教育部会・福祉教育部会等で研究、見直し等を行っている。</p> <p>カリキュラムは学科(専攻)に関わるもののみならず、社会的・職業的自立を目指し、「キャリア教育」の視点に立ったものになっている。 授業改善、教職員・講師の資質向上等を目的とし、授業評価を年2回実施しているが、これを通して講師や学生の状況を正確に把握し、総合的な判断ができる要因となっている。</p> <p>教員の授業力向上を目指し、滋慶教育科学研究所の協力のもと「FD研修」を行っている。 成績評価・単位認定の基準を明確にし、学生指導を行っている。明確な基準と共に、柔軟な対応ができる余地を残すことで、すべての学生が学科の目標を達成した上で、進級・卒業できる体制を作っている。</p> <p>資格取得については、業務を行う上で必要な資格、就職に有利な資格という範囲で取得に向け、全面的に支援を行っている。</p>	<p>名古屋医健は、2013年の開校以来、教職員の目標として、 1. 国家試験合格率100%(合格者/入学者) 2. 専門就職率 100%(就職者/専門分野就職者) 3. 退学率 0%(入学者は全員卒業してもらう) を掲げ、その達成のために構築した4つの重要なシステムを構築している。</p> <p>○第1のシステムは入学前の自己発見→自己変革→自己確立という、自己3段階教育と、動機づけ・目的意識づけプログラムである。 入学前からの一貫した育成システムと目的意識をもって取り組むプログラムの組み合わせにより、モチベーション向上を果たしている。また、ポートフォリオを用いて、生活および学習習慣を作ることから始めている。</p> <p>○第2のシステムは、即戦力としての実践的技術・知識、ビジネスマインド等を身につけるための教育システム「産学連携教育システム」である。 これには、次の6つが挙げられる。①企業プロジェクト ②Wメジャーカリキュラム ③業界研修④海外実学研修 ⑤特別ゼミ ⑥キャリアセンターである。</p> <p>○第3のシステムは、国家試験・各種資格試験全員合格のための対策の構築である。</p> <p>○第4のシステムは、「多職種連携教育」を実践し、それぞれの現場で多職種と連携しながら仕事を進める力を養う。これには下記が挙げられる。①選択ゼミ、②他学科との連携授業、③特別講義等である。</p> <p>また教育システムのさらなる開発のため、滋慶学園グループの全校から構成する「医療教育部会・スポーツ科学教育部会・福祉教育部会」を設置し、システムの共有化、レベルの向上を図っている。 主な研究内容は、①教育指導法・技法の開発 ②カリキュラム検討 ③生涯教育プログラム ④教職員研修 ⑤国際教育システム開発 ⑥イベント・卒業研究の運営 ⑦国家試験・各種資格試験対策等である。</p>	3.2	<p>・時代の変化により、育成方法を検討や変更しなければならないことが、これからもあるかと思えます。ですが、時代に合わせた、もしくは、それ以上の学問や技術を教育しているのではないかと感じております。</p> <p>・学校の方針が打ち出され、進んでいることは大変良いが、学生の意見が反映されているのかよくわからない。</p> <p>・それぞれの職業が、将来どう変化していくかを予測し、今からその対応をしていってください。</p> <p>・指導体制等は、十分整っている。ATの資格取得率の向上を図っていただきたい。</p> <p>・国家試験合格率100%が目標であることから、評価点数を「3」とした。歯科衛生科においては、既卒者の不合格が響いているとのこと、さらに教育は既卒者にもアプローチをしているとのこと。取り組みは十分と考える。</p> <p>・指導者の熱意が伝わりました。また学生個々に対する丁寧な指導もされており、他の専門学校さんよりも個人に寄り添っていると感じました。</p>
4 教育成果	<p>4-20 就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか</p> <p>4-21 資格取得率の向上が図られているか</p> <p>4-22 退学率の低減が図られているか</p> <p>4-23 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか</p>	3	<p>教育成果は目標達成の努力の結果である。本校では、国家試験合格率100%(合格者/入学者)、専門就職率(就職者/専門分野就職者)100%、退学者0名を教育成果の最終目標に学校運営を行っている。</p> <p>就職では、開校以来、最終的には就職希望者全員就職を達成している。専門就職率、就職対象率の向上も課題として取り組んでいる。</p> <p>退学率では、個別カウンセリングの強化、支援クラスの立ち上げ、転科・転専攻等、様々な取り組みのを行った結果、2022年度の7.2%から、2023年度は9.1%(全体退学率)へと推移した。 2024年度以降は、より一層の学生個々の徹底したフォロー、カリキュラムの工夫、担任制度の強化、学習サポート、学生カウンセリングの強化等々を実施し、退学率0%達成に向け、努力を継続していく。</p>	<p>教育成果の1つである就職は、年々、専門就職率が向上しているが、100%を達成すべく努力を続けている。また、できるだけ多くの学生が夢をかなえて就職するよう、就職対象者率の向上も大きな課題である。 学生が目標を達成できるように、保護者と三位一体となり、支援する体制作りを行っている。</p> <p>退学率では、転科・転専攻や個別カウンセリングも強化し、現状以上に体制を整え、1人でも退学者を出さない学校になるべく、努力していく。 今後は、最終目標である0%に向け、さらなる努力を重ねたい。</p>	3.1	<p>・自分で進路選択して決定して不確実な未来を描いている若者たち、もしくは、進路変更された方もいると思えます。学校の内外でのサポート、アシストを覚えていただければと思います。</p> <p>・退学率の減少に向けて、更なる努力に期待します。</p> <p>・卒後の離職率も統計化してほしい。</p> <p>・教育成果を上げるには、学生のモチベーションを如何に上げ、更に持続させるかが重要だと思います。</p> <p>・卒業後の状況を把握することも重要かと思えます。就職後の離職率を把握することも必要ではないでしょうか。</p> <p>・一人一人の学生のニーズやモチベーションを把握し、退学率を下げたいと思っています。</p> <p>・就職率は問題ないと考える。</p> <p>・退学についても、低減するように連絡を取りフォローをされているので、この細やかな対応が先々に繋がってゆくかと思えます。</p>
5 学生支援	<p>5-24 就職に関する体制は整備されているか</p> <p>5-25 学生相談に関する体制は整備されているか</p> <p>5-26 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか</p> <p>5-27 学生の健康管理を担う組織体制はあるか</p> <p>5-28 課外活動に対する支援体制は整備されているか</p> <p>5-29 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか</p> <p>5-30 保護者と適切に連携しているか</p> <p>5-31 卒業生への支援体制はあるか</p>	3	<p>本校では、学生が目標を達成できるように、物心両面の環境を整備していくことで支援に繋がると考える。 しかし、支援はあくまでも支援である。例えば、健康の維持は学業目標達成には欠かせない事項であり、本校でも健康診断にとどまらず、多くの支援体制を築き上げているが、学生本人が健康管理についての自覚を持たない場合、支援は効果がない。 それゆえ、学生支援はまず学生の自立的行動を促すことから始めている。またキャリア教育・生涯教育の観点から卒業後の支援についても継続している。</p> <p>学生支援には、①就職 ②学費 ③学生生活 ④健康 などの分野で行っているが、それぞれの分野で対応できる担当部署及び担当者を置いている。 ①就職については、専門部署であるキャリアセンターを設置し、担任との強い連携をとりながら、就職の相談、斡旋、面接他各種指導などの支援をしている。 ②学費については、相談窓口として事務局会計課を置き、提供できる学費面でのサービスをアドバイスするファイナンシャルアドバイザーにより支援している。 ③学生生活については、担任及び副担任制により行うが、それ以外にもSSC(スチューデント・サービス・センター)という悩みや相談を受ける専門部署を置き、支援している。 ④健康については、年に一度の定期健康診断を提携クリニックが担当し、在学中の健康管理を支援している。</p> <p>また、学生の課外活動であるサークル・同好会について、学校が年間予算を計上し、担当者を配置して、支援し、学生満足度アップに貢献している。</p> <p>保護者との連携については、定期的に保護者会を実施し、学科スケジュールや卒業・進級規定についての説明を行っている。</p>	<p>滋慶学園グループでは、「学生はゲスト」というコンセプトがあるが、本校でもこのコンセプト通り、学生を第一に考え、様々な支援体制を整備している。その中でも、「就職」は学生が目標を達成し、業界で活躍するための最重要事項であり、本校では非常に力を入れており、キャリアセンターという専門部署を置き、専任のスタッフを配置している。 キャリアセンターは、業界現場での実践研修である「業界研修」の指導から、個別相談、就職対策講座、就職支援イベント開催、就職斡旋等々、就職に関するあらゆる支援を行っている。 また、求人情報等を学生が自宅のパソコン、スマートフォンでも閲覧できる就職支援システム「サクセスナビ」、一斉メールなどシステムの構築をし、迅速な対応ができるように支援している。このような支援体制の結果、就職希望者は全員就職を達成している。</p> <p>「就職」と並ぶ重要項目である、「教育」については、教育環境を整備し、成果を上げている。 即戦力の人材を育成するための施設・設備、機材等々を完備し、また業界ニーズとブレのないカリキュラムの構築、業界第一線で活躍する講師陣による授業など、オンリーワンを目指す学校として十二分な体制を確立している。</p> <p>健康管理においても、全ての学生、教職員に健康診断の受診を徹底し、2次検査の受診と報告を実施している。</p> <p>学生生活を送る上で生活習慣の管理は必要不可欠である。そのため、保護者との連携は必須で、保護者会の開催・定期的な保護者面談も行い、家庭と学校の一貫した生活を送ってもらえるように連携をしている。</p> <p>日本学生支援機構の奨学金貸与の実施と、返還指導も卒業年度生及び、卒業後も実施している。</p>	3.4	<p>・多くの学科の先生がいらっしゃるので、色々な目線で相談ができるのは、この学校の強みだと思います。心に秘めてしまう方もいるかと思いますが、その人に合った導き方をみつけることができていると思えます。時には卒業生に頼ってみてはどうでしょうか。(年齢が近いので)</p> <p>・現役学生同様に、卒業研修等を充実してほしい。</p> <p>・十分な支援体制が取られていると思えます。今後も学生の意見を傾聴して、学生の立場に立って支援してあげてください。</p> <p>・キャリアセンターを持ち、サポートができています。数名の学生が、同じ就業先を選択する事例もあるとのこと。キャリアセンターの職員と教員とが、それぞれに「流されていないか」など意思確認ができるとよいかと考える。</p> <p>・卒業生への対応を暖かく指導されており、母校に対する誇りや愛情を感じているのではないかと思います。</p>

6 教育環境	<p>6-32 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できる よう整備されているか</p> <p>6-33 学外実習、インターンシップ、海外研修等について 十分な教育体制を整備しているか</p> <p>6-34 防災に対する体制は整備されているか</p>	3	<p>本校は、業界で即戦力となり得る人材育成を目的としており、そのための教育環境(施設・設備、機材等)の整備は重要であり完備されていると考える。</p> <p>校内の教育環境に留まらず、学外の環境(業界研修、学外実習、海外実学研修・臨床実習)も十二分に整備することが求められている。キャリアセンター、教務部、国際部が一丸となって、その整備を行い、教育効果につなげている。</p> <p>防災訓練・避難訓練・救命講習等も計画的に実施しており、安全対策を日頃から指導・啓発している。</p>	<p>オンリーワンを目指す本校にとって、教育環境である施設・設備・機材等は非常に重要な要素であり、それゆえ、どこにも負けない最新・最良のものを整備している。</p> <p>毎年、事業計画を基に、予算計上の上、計画通りに購入・更新等を行えている。これ以外の学外教育環境も教務部、キャリアセンター、国際部が一丸となって整備しており、これは本校の大きな強みと考えている。</p>	3.2	<p>・理解が得られていない状態での学習ほど身につかないものはありません。実際に現場を見て、理解することが多かったです。</p> <p>・よいと思う。</p> <p>・学外実習については、学生に夢を持たせるような実習先を選んでください。</p> <p>・十分な教育設備、体制を整え学生に提供している。</p> <p>・どの職業も「多職種連携」は大きな課題である。多職業の専門学校である貴校は恵まれた環境にあると思う。これを今後も活かしていってほしい。</p>
7 学生の募集と受け入れ	<p>7-35 学生募集活動は、適正に行われているか</p> <p>7-36 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか</p> <p>7-37 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか</p> <p>7-38 学納金は妥当なものとなっているか</p>	4	<p>本校は、愛知県専修学校各種学校連合会に加盟し、同会の定めたルールに基づいた募集開始時期、募集内容(AO 入試等)を遵守している。</p> <p>また過大な広告を一切廃し、必要な場合は根拠数字を記載するなど、適切な学生募集ができるように配慮している。</p> <p>さらに、広告倫理委員会を設置し、広報活動の適切さをチェックしている。</p> <p>広報・告知に関しては、各種媒体、入学案内、説明会への参加やホームページを活用して、学校告知を実施し、教育内容等を正しく知ってもらうように努めている。これらすべての広報活動等において収集した個人情報・出願・新入生の個人情報等本校に関わるものの個人情報は、校内に個人情報保護委員会を設置し、厳重に管理し、流出及び他目的に使用しないように、管理の徹底を図っている。</p> <p>入学選考に関しては、出願受付及び選考日を学生募集要項に明示し、決められた日程に実施しているが、入学選考後は、「入学選考判定会議」により、合否を決定する。</p> <p>なお、本校における入学選考は、学生募集要項にも明示している通り、「面接選考」及び「書類選考」「筆記試験」であるが、その基準となるのは、「目的意識」である。将来目指す業界への職業意識や具体的な目標がしっかりしているかを確認すると共に、その目的が本校より提供する教育プログラム及びカリキュラムにおいて実現可能かを確認するものである。</p> <p>学納金や預かり金、教材等の見直しを毎年行っており、学費及び諸経費の無駄な支出をチェックしている。</p> <p>保護者への授業料及び諸経費の提示についても、入学前の段階において、年間必要額を学生募集要項に明記し、基本的に追加徴収を行わない。</p>	<p>学生募集については、募集開始時期、募集内容等々ルールを遵守し、また、過大な広告を一切排除し、厳正な学生募集に配慮している。</p> <p>広報活動では「学校の特色を理解してもらう」ことに重きを置いている。本校は専門就職を果たしてもらうことを第一目標としているため、入学前に職業イメージがどれだけ明確になっているかが大切と考え、体験入学や説明会への複数回参加を促し、充分理解し、疑問を解消した上で出願してもらうことを心がけている。</p> <p>教育成果として、高い専門就職実績と卒業生の活躍の打ち出しを強化しており、学生募集上の効果はかなり高いと考えている。それゆえ、過大な広告にならないよう、学内に広告倫理委員会を設置し、事務局長、広報スタッフ等が常にチェックしている。</p> <p>また本校は、一般社団法人日本プライバシー認証機構「TRUSTe」の国際規程の認証を受けている。</p>	3.6	<p>・こども保育科は、高校の教員にうまく伝わっていない。御校に進学すると達成できることや御校の特徴を伝えていくことが必要であると思います。</p> <p>・入学も大事なことではあるが、卒業後のフォローがあれば、より良い学校になるのでは。</p> <p>・今後の更なる努力に期待しています。</p> <p>・適切に実施されている。</p>
8 財務	<p>8-39 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか</p> <p>8-40 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか</p> <p>8-41 財務について会計監査が適正に行われているか</p> <p>8-42 財務情報公開の体制整備はできているか</p>	4	<p>財務は、学校運営に関して、重要な要素の1つである。その中で予算(収支計画)は学校運営に不可欠なものであって、その予算を正確かつ実現可能なものとして作成する必要がある。</p> <p>毎年、次年度事業計画を作成し、その事業計画の中に5ヶ年の収支予算を立てているが、次年度の収支予算はもちろんのこと、中長期的に予算を立てることによって、学校の財務基盤を安定させるための計画を事前に組んでおくのが目的である。</p> <p>5ヶ年の予算は、5年後を見越した中長期的事業計画内で、新学科構想、設備支出等について計画し、将来の学生数、広報・教育・就職計画を鑑みながら予測し、収支計画を作成している。学校、学園本部、理事会・評議員会と複数の目でチェックするため、より現実し即した予算編成となっており、健全な学校運営ができていると考えている。</p> <p>会計監査は、法人及び学校の利害関係者に対して、法人等の正確かつ信頼できる情報を提供するために、第三者による監査人が法人とは独立し計算書類が適切かどうかを監査することを意味する。</p> <p>平成17年4月から私立学校法が改正され、学校法人の財務情報公開が義務づけられたが、これに迅速に取り組み、「財務情報公開規程」及び情報公開マニュアルを作成し、現在に至っているので、財務情報公開の体制は整っている。</p>	<p>予算を正確かつ実現可能なものにするための2つの要素がある。</p> <p>①正確かつ実現可能な予算の作成 予算は短期的、中長期的の2種類がある。短期的は次期1年間のもの、中長期的は2～5年間のものである。 当学校法人及び学校では、短期的と中長期的の両方を事業計画書として作成し、短期的視野と中長期的視野の2つの観点から予算編成している。 短期的な予算編成は当年度の実績を基礎に次年度に予定している業務計画を加味して行われる。 中長期的な予算編成は主として大規模な計画を視野に入れた上で、業界の情勢を読み取りながら行われる。 正確かつ実現可能な予算作成のためには、一旦作成した予算が現実のものとなればそれを修正する必要がある。そのために短期的な予算においては期中に「修正予算」を組み、中長期的な予算においては毎年編成しなおすことにしている。 これにより、短期的にも中長期的にも正確かつ実現可能な予算編成を組むことができる。</p> <p>②①のための体制作り ①のように実現可能な予算作成するためには、その体制作りが必要になる。 事業計画・予算は学校責任者が協議して作成し、滋慶学園本部がチェックし、修正して最終的に理事会・評議員会が承認する体制を整えている。 さらに、予算に基づいて学校運営がなされているかどうかは四半期ごとに予算実績対比を出し、学校責任者と学園本部が協議し予算と実績が乖離しているようであれば修正予算を編成し、理事会・評議員会の承認を得る。 作成した決算書、事業報告書については、情報公開の対象となり、利害関係者の閲覧に供することとなる。</p>	4	<p>・良いと思う。</p> <p>・適正に運営されていると思います。</p> <p>・適正な財務処理がなされ、情報公開についても積極的であり評価できる。</p>

<p>9 法令等の遵守</p>	<p>9-43 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか</p> <p>9-44 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか</p> <p>9-45 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか</p> <p>9-46 自己点検・自己評価結果を公開しているか</p>	<p>4</p>	<p>法令を遵守するという考えは、滋慶学園グループ全体の方針として掲げ、各校の教職員全員でその方針を理解し、実行に努めている。法人理事会のもとに、コンプライアンス委員会で学校運営が適切かどうかを判断している。</p> <p>現状では、学校運営(学科運営)が適切かどうかは次の各調査等においてチェックできるようにしている。 ①学校法人調査 ②自己点検・自己評価 ③学校基礎調査④専修学校各種学校調査 等である。 また、組織体制強化やシステム構築にも努め、次のようなものがある。</p> <p>(A)組織体制 ①財務情報公開体制(学校法人) ②個人情報管理体制(滋慶学園グループ) ③広告倫理委員会(滋慶学園グループ) ④進路変更委員会(滋慶学園グループ)</p> <p>(B)システム(管理システム) ①個人情報管理システム(滋慶学園グループ) ②建物安全管理システム(滋慶学園グループ) ③防災管理システム(滋慶学園グループ) ④物品購入棚卸システム(滋慶学園グループ) ⑤コンピュータ管理システム(COM グループ)</p> <p>滋慶学園グループ、COM グループと全体というスケールメリットを活かし、各委員会、体制、システムにより、各校が常に健全な学校(学科)運営ができるようにしている。 法令や設置基準の遵守に対する方針は明文化し、法令や設置基準の遵守に対応する体制作りは完全に整備できている。</p>	<p>3つの教育理念、「実学教育」、「人間教育」、「国際教育」で「職業人教育を通して社会に貢献する」という建学の理念の実現を目指し、4つの信頼(「産業界からの信頼」、「高等学校からの信頼」、「学生・保護者からの信頼」、「地域からの信頼」)を確保するためにもコンプライアンス推進をはかる。</p> <p>具体的には、すべての法令を遵守するとともに、社会規範を尊重し、高い倫理観に基づき、社会人としての良識に従い、行動することが私たちの重要な社会的使命と認識し、実践する。</p> <p>方針実行のため、学内にコンプライアンス委員会を設置し、コンプライアンスを確実に実践・推進に当たらせることにした。 委員長は、統括責任者としての学校の役員が就任する。委員は学校の現場責任者である事務局長と実務責任者の教務部長で構成される。 主な任務は、行動規範・コンプライアンス規程の作成、コンプライアンスに関する教育・研修の実施、コンプライアンス抵触事案への対応及び再発防止対策の検討・実施、コンプライアンス周知徹底のためのPR、啓発文書等の作成・配布である。</p> <p>また、監事による毎年の監査に際して、業務監査の対象として、コンプライアンスの実施状況についても監査してもらっている。 今後は、コンプライアンス相談窓口の設置が必要であると考えている。</p> <p>近年ではITリテラシー教育・DXリテラシー教育を強化しており、SNSやネットワークを使用した際の注意事項等に関する「IT理解度テスト」を年一回、学生・講師・全教職員に行っている。</p>	<p>4</p>	<p>・良いと思う。 ・しっかりとシステム作りがされており、コンプライアンスは十分に守られていると思います。 ・遵守されている。</p>
<p>10 社会貢献</p>	<p>10-47 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか</p> <p>10-48 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか</p>	<p>4</p>	<p>本校には、滋慶学園グループの「4つの信頼」(①産業界からの信頼 ②高等学校からの信頼 ③学生・保護者からの信頼 ④地域からの信頼)というコンセプトがある。 この「4つの信頼」の獲得を目指すことが社会貢献に繋がると考えている。</p> <p>例えば、業界企業や団体、あるいは高等学校等の教育機関とタイアップして行う各種教育関連イベント・スポーツイベント・市民イベント等を通じ「業界の信頼」、「地域の信頼」を獲得し、社会貢献に繋がっていると考えている。</p> <p>以上のように、特別なことをするわけではなく、滋慶学園グループが掲げる「4つの信頼」の獲得を目指すことが、すなわち社会貢献を果たすことに繋がっていると考えている。</p>	<p>本校では、左記に記入したように、教職員及び学生が「産業界からの信頼」、「高等学校からの信頼」、「学生・保護者からの信頼」、「地域からの信頼」という、滋慶学園グループの「4つの信頼」を獲得し、それによって社会貢献を果たすということを常に意識して様々な活動を行っている。</p> <p>2023年度主な活動について</p> <p>●バランス能力向上に向けたダンス制作・普及プロジェクト 愛知県三河青い鳥医療療育センターと、家庭でも取り組める バランス能力向上に向けた運動を、音楽をつかったダンスの形で 制作・指導をおこなった。</p> <p>●サッカー教室のメニュー作成 公益社団法人名古屋青年会議所との新しい部活動の取組みとして、名古屋グランドパスエイトのコーチと共に、部活動に所属していない子ども達でも楽しめるようなサッカー教室を実践した。</p> <p>●療育を必要とする人が「働く」ことを学ためのイベント企画・運営 療育を必要とする子ども達や利用者様による「ナーシング祭り」では、様々な特性に合わせながら「働く」ことを楽しく学んでもらうブースを企画運営した。</p> <p>●子供の運動能力向上を目的とした創作ダンス制作 一般社団法人ダンス教育振興連盟JDAC様と子供の運動能力向上、主体生や表現力を育むための創作ダンスを制作し実践をおこなた。</p>	<p>3.8</p>	<p>・他の学校では体験できないような実習やボランティア等に参加できると思います。時代によって、参加できることは変わりますが頑張ってください。 ・ことも保育科や、食・農業分野は、高等学校からの信頼に一層繋がると考えます。 ・様々なボランティア活動に積極的に参加して、社会に貢献する素晴らしいさを学生さんにも知ってほしいと思います。 ・専門性を活かした社会貢献活動は、学生の総合力向上にも役立つので、さらに進めてほしい。 ・興味深い研究をされており、毎回、発表を楽しみにしています。(社会貢献を兼ねての卒業発表ですから、学生にとっても深い学びとなりますね)</p>